



333 East 47th Street

New York, NY 10017

japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日:2022年1月20日

プレス担当:

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー(JS)

リビング・トラディションシリーズ

オンラインセミナー第五弾

Japanese Pop Culture: Connecting the World through Manga and Anime

『マンガとアニメで繋がる世界：日本のポップカルチャー』

2月15日(火) 午後7時00分～8時00分＊米国東部標準時

午後4時00分～5時00分＊米国太平洋標準時



Images: SeanPavonePhoto / iStock.

JSは2月15日(火)、「リビング・トラディションシリーズ」の第五弾オンラインセミナー『マンガとアニメで繋がる世界：日本のポップカルチャー』を開催します。

マンガやアニメに代表される日本のポップカルチャーは、世界の文化を語る上で、ますます重要な役割を果たすようになっています。本セミナーでは、漫画家であり株式会社ミクシィのコンテンツ・プロダクション・グループ・マネージャーを務めるジュリア・メクラー氏、そして『ジャパナメリカ 日本発ポップカルチャー革命』著者のローランド・ケルツ氏をお迎えし、マンガ・アニメ業界の現状や、最新トレンド、技術革新についてお話を伺います。また、司会に『Japanese Popular Culture and Globalization』著者のビル・ツツイ氏を迎え、マンガ・アニメの歴史から、オタク文化が世界に与えた影響、今後の日本国内外での展望を議論します。本セミナーは、リビング・トラディションシリーズの最終回として、特有の文化的DNAに根付いた日本のポップカルチャーの世界を探求します。

アジェンダ：ディスカッション、Q&A 午後7時00分～8時00分（米国東部標準時）/午後4時～5時00分（米国太平洋標準時）

参加費：無料 （参加には事前登録が必要です）

登録方法：[こちら](#)よりご登録ください。

*本オンラインセミナーはYouTubeにて配信します。事前登録いただいた皆様に、イベント当日に視聴リンクをお送りします。

*オンラインセミナー中は、YouTubeを通してスピーカー・モデレーターにご質問いただけます。

*本オンラインセミナーは、英語で行います。

スピーカー

【ジュリア・メクラー氏】

漫画家であり、株式会社ミクシィのコンテンツ・プロダクション・グループ・マネージャー。沖縄を題材とした漫画『てだしろのかみうた』を、1977年創業の老舗アメコミ雑誌「ヘビーメタルマガジン」より出版。

日本のアニメ・ゲーム出版社でモーショングラフィックデザイナーとしてキャリアをスタートし、現在はロサンゼルス・ニューヨークの2都市を拠点に現職を務める。

デジタルエンターテイメントを中心に活動しているが、沖縄の伝統芸能にも精通しており、沖縄県にて伝統芸能とデジタルエンターテイメントを掛け合わせたシリーズイベントをプロデュースしている。琉球舞踊において舞踊家として数々の賞も受賞している。

【ローランド・ケルツ氏】

東京在住の日系アメリカ人作家・ジャーナリスト・学者であり、ベストセラー本『ジャパナメリカ 日本発ポップカルチャー革命』の著者。ザ・ニューヨーカー、ニューヨーク・タイムズ紙、ハーパーズ・マガジン、クリスチャン・サイエンス・モニター、ガーディアン、タイムズ、ニュースウィークジャパン、読売新聞など欧米や日本の数多くの新聞・雑誌に寄稿。ジャパンタイムズのコラム「MONKEY: New Writing from Japan」の寄稿編集者であり、早稲田大学客員教授でもある。宮崎駿や村上春樹など、日本の様々な分野における著名な作家やアニメーターへのインタビューを行い、日本文化・メディア評論の権威としても知られている。また、CNN や NPR、NHK、BBC などでメディアコメンテーターとしても頻繁に活躍する。最近では、世界経済フォーラムや日本の TED Talks でスピーチも行う。

モデレーター

【ウィリアム・M・ツツイ氏】

オタワ大学の学長と教授を兼任。2020~2021 年度ハーバード大学のエドWIN O.ライシャワー特別教授に任命される。現代日本経済・環境・文化史を専門としハーバード大学、オックスフォード大学、プリンストン大学で学ぶ。日本の大衆文化とグローバライゼーション、戦後日本における「惨劇のイマジネーション」、そして日米の巨大怪獣映画についてなど広範囲にわたる著書がある。ニューヨーク・タイムズ紙で「カルト・クラシック」と称された『Godzilla on My Mind: Fifty Years of the King of Monsters』(2004)は、日本でも中公叢書から『ゴジラとアメリカの半世紀』として出版された。フルブライトとマーシャル奨学金を受け、アジア研究

協会のジョン・ホイットニー・ホール・ブック賞を2000年に受賞。カンザス大学、ササンメソジスト大学、ヘンドリックス大学での勤務を経て現職。

本イベントは、全5回「リビング・トラディションシリーズ」の第5弾として開催されます。

リビング・トラディションシリーズ

世界を惹きつけてやまない日本文化の精髄は、何世紀にもわたる伝統に根ざしていると言えます。「リビング・トラディションシリーズ」では、5つの異なるテーマについて多様なスピーカーを迎え、今日人々に親しまれている日本文化の諸相を歴史的に紐解きつつ、確固たる伝統が現代社会でどのように継承されているかを議論します。

取材お申し込み: 取材のお申し込みは、プレス担当：マリカ（日本語）／ロッドマン（英語）までEメールで(Emarica@japansociety.org/ARodman@japansociety.org)ご連絡下さい。

本オンラインセミナーは、ポートランド日本庭園財団の共催及び日本政府の支援により開催しております。

ジャパン・ソサエティー・トーク+（プラス）プログラムは、MUFG (Mitsubishi UFJ Financial Group)及びORIX Corporation USAのスポンサーにて開催しております。また、匿名ドナー、the Sandy Heck Lecture Fund 及び, Helen and Kenneth A. Cowin 氏にも多大なご支援・ご協力をいただいております。

JSについて：

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエーターの支援、日米相互理解の促進、日本

の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

JS は今年、ニューヨークのランドマークである本館設立 50 周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JS が文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook : facebook.com/japansociety

Instagram : [@japansociety](https://www.instagram.com/@japansociety) and #japansociety

Twitter : [@japansociety](https://twitter.com/@japansociety) (英語) / [@js_desu](https://twitter.com/@js_desu) (日本語)

その他、詳しい情報は弊会ウェブサイト [https://www.japansociety.org](http://www.japansociety.org) をご参照ください。

ポートランド日本庭園財団について：

ポートランド日本庭園財団は、第二次世界大戦後の日米両国間の文化理解の場として 1963 年に創立されたアメリカ合衆国の公益財団法人です。世界恒久平和の希求と二国間の人的交流、そして異文化理解の探求を礎に民間で発足した本財団は、時を経てポートランドを代表する庭園文化団体となり、日本国外にある中でも最も本格的な日本庭園と認められるまでに成長しました。年間来場者数 50 万人を超えるポートランド日本庭園は、憩いや癒しの場としての従来の庭園像だけでなく、広くアートや文化というレンズから見た各種プログラムを提供すると共に国境を超え、人類の多様性理解を深める多様なプロジェクトを推進しています。

庭園の最新情報は、[フェイスブック](#)、[インスタグラム](#)、[ツイッター](#)、[YouTube](#) をご覧ください。

#